

## はじめに

- 2008年2月より入院患者を対象に、アサーショントレーニングを開始した。
- コミュニケーションに対するセルフエフィカシーや主観的な満足度の向上がみられた。しかし、参加継続がなされていないことがわかった(春名, 2008)。
- そこで、参加継続の向上を目的に、プログラムを改訂し、2008年12月より、新たなプログラムを開始した。

こころと身体のクリニック  
医療法人 五稜会病院

## プログラムの改訂

- 回数の変更  
改訂前のプログラムへの参加が最大でも6回であったため、全8回のプログラムから全5回のプログラムに変更した。
- 内容の変更  
重複した内容が多かったため、出来る限り重複した内容を減らした。また、内容も一部変更した。

こころと身体のクリニック  
医療法人 五稜会病院

## 改訂後のプログラム

自分を上手く表現する方法として、5つのテーマを取り上げ、実施している。

- |                    |   |         |
|--------------------|---|---------|
| テーマ①権利を知ろう         | → | アサーション権 |
| テーマ②相手が理解しやすい言葉を選ぶ | } | 言語的工夫   |
| テーマ③つぶやきに目を向ける     |   |         |
| テーマ④言葉癖を知る         | } | 非言語的工夫  |
| テーマ⑤外見に気を配る        |   |         |

こころと身体のクリニック  
医療法人 五稜会病院

## 目的

- 本研究では、改訂後のプログラムについて、参加継続向上の検討として、参加状況の変化を検討した。
- また、プログラムの効果の検討として、コミュニケーションに対するセルフエフィカシーと主観的な満足度の変化を検討した。

こころと身体のクリニック  
医療法人 五稜会病院

## 対象者

□ ストレスケア・思春期病棟に入院中の患者で、医師の判断および本人の希望によりプログラムに参加した患者を対象とした (Table 1)。

Table 1. 対象者の人数、平均年齢、診断の内訳

	改訂前	改訂後
期間	2008年2月～10月	2008年12月～2009年7月
総参加人数	97名(男性26名、女性71名)	130名(男性47名、女性83名)
平均年齢	34.35(±10.52)	37.12(±10.92)
診断		
統合失調症	2名	11名
感情障害	70名	107名
神経症性障害	17名	11名
パーソナリティ障害	8名	1名

こころと身体のクリニック  
医療法人 五稜会病院

## 参加状況の比較検討

- 改訂前後の参加状況の比較として、1回のプログラムに参加した人数の平均人数を算出し、差の検定を行った。検定は、Mann-WhitneyのU検定を用いた。
- 参加の継続について、初回参加人数に対する、2回目以降の参加人数の割合を算出した。

こころと身体のクリニック  
医療法人 五稜会病院

## 指標の比較検討

- セルフエフィカシーと主観的な満足度は、参加申し込み時に10件法を用いて記入を求めた。
- 1回だけの参加、未記入のデータは除外した。
- 初回時をベースラインとし、その平均値と2回目以降の平均値との差を比較した。
- 検定は、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

こころと身体クリニック  
医療法人  
五稜会病院

## 結果①:参加状況の比較

Table 2. 総参加人数、平均参加人数、参加人数の推移

	改訂前 2008年2月～10月	改訂後 2008年12月～2009年7月
期間	2008年2月～10月	2008年12月～2009年7月
回数	26	26
総参加人数	97	130
1回平均 参加人数	3.73	5.00*
初回	40	46
2回目	26 (65)**	33 (72)
3回目	18 (45)	24 (52)
4回目	10 (25)	18 (39)
5回以上	3 (8)	9 (20)

\*  $p < .05$

\*\* Note:( )内は継続して参加した人数の割合。

こころと身体クリニック  
医療法人  
五稜会病院

## 結果②:指標の変化

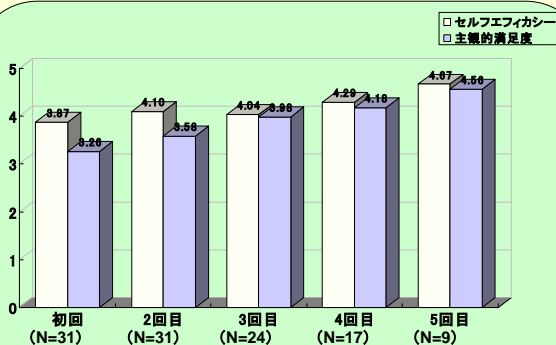


Fig 1. 初回から5回目までの各指標の平均値

こころと身体クリニック  
医療法人  
五稜会病院

## 考察:参加状況の変化

- 1回当たりの参加人数が、増加していることが明らかとなり、継続した参加の割合は、改訂後には7～14ポイント上昇した。
- プログラム内容を変更したことで、少なくとも改訂前に比べて、参加を継続する患者が増えた。したがって、現在の回数や内容が継続には有効と考えられる。

こころと身体クリニック  
医療法人  
五稜会病院

## 考察:指標の変化

- 初回と2回目以降の得点に差はなかった。したがって、本プログラムはセルフエフィカシーや満足度を向上させる効果が小さいといえる。
- 指標の改善には、セルフエフィカシーや身近な目標設定に関する心理教育を導入するなどの工夫が必要と考えられる。
- また、プログラムのターゲットを再検討し、現在の指標が適切かどうかを改めて評価することも必要と考えられる。

こころと身体クリニック  
医療法人  
五稜会病院

## 今後の課題

- 指標の改善に有効と考えられる内容を追加するなど、プログラムを改訂する必要性が考えられる。
- さらに、現在のプログラムのターゲットを再検討し、より適切な指標の導入を考慮する必要がある。

こころと身体クリニック  
医療法人  
五稜会病院